PEACH-PIT

ローゼンメイデン

ローゼンメイデン 3

PEACH-PIT

ヤンジャンC

集英社

ISBN978-4-08-877811-2

C9979 ¥600E

定価 本体600円＋税

雑誌 44268-11

3

翠星石が登場して混戦を極めるアリスゲーム。
真紅と契約しようと立ち上がるジュンだが、
実体化を目論む雪華綺晶に行く手を阻まれる。
翠星石が「まかなかった」世界にやって来た真の目的とは？
蒼薇乙女それぞれの思惑が交錯する中、
ジュンはある重大な決断を迫られる――。

ISBN978-4-08-877811-2

C9979 ¥600E

9784088778112

1929979006006

定価 本体600円＋税

雑誌 44268-11

翠屋石が登場して混戦を極めるアリスゲーム。
真紅と契約しようと立ち上がるジュンだが、
実体化を目論む雪華綺晶に行く手を阻まれる。
翠屋石が「まかなかった」世界にやって来た真の目的とは？
蒼薇乙女それぞれの思惑が交錯する中、
ジュンはある重大な決断を迫られる。。。

3

祈り、捧げよう。
すべては貴女のために。

PEACH-PIT

集英社

絶賛発売中!!
「Rozen Maiden（薔薇乙女）」全7巻
総集「Rozen Maiden」

PEACH-PIT
直筆サイン入り

PEACH-PIT PRESENTS
MANGART BEAMS T×ローゼンメイデン コラボTシャツ

詳しくは巻末をご覧ください！

週刊ヤングジャンプにて大人気連載中!!

MANGART BEAMS T

ローゼンメイデン コラボTシャツ
2月19日発売!!

★価格:5040円(税込) ★サイズ:XS(レディース),S,M,L ★カラー:ミントクリーン

商品のお問い合わせ『MANGART BEAMS T DAIKANYAMA』
★電話:03-5428-5952 ★住所:渋谷区猿楽町19-6 2F
★営業時間:11:00～20:00 不定休
http://www.beams.co.jp/shop/east/daikanyama/beams-t-daikanyama.html
オンライン通販『BEAMS ON LINE SHOP』http://shop.beams.co.jp/shop/beamt/

PEACH-PIT直筆サイン入りのTシャツを10名にプレゼント!

応募のきまりは裏の袖をご覧ください。

★ 応 募 の さ だ め り ★

応募券を郵便ハガキに貼り(コピー不可)、あなたの住所・氏名・年齢・電話番号・発売・希望のTシャツのサイズ(XS,M,Lのいずれかひとつ)を明記して、下記の宛先までご応募ください。
★宛先:〒101-8052 神田五十 郵便私書箱第16号
集英社『週刊ヤングジャンプ』編集部 『ローゼンメイデン』Tシャツプレゼント』係
★締切:2010年3月1日(当日消印有効)
★発表:賞品の発送をもって代えさせていただきます。

・ご応募者多数の場合には抽選にて当選者を決定します。
・このご応募いただいた個人情報は本企画遂行以外の目的に利用することはありません。
・応募券はなくさないようにしっかりと貼り付けてください。
・応募のきまりが守られていない場合、賞品の発送ができない場合があります。
・当選者以外に関するお問い合わせなどはご遠慮ください。ご了承ください。

ローゼンメイデン 公式サイト

PEACH-PIT

ローゼンメイデン

YJ ヤンジャン YJC

ローゼンメイデン 3

PEACH-PIT

集英社

9784088778112

ISBN978-4-08-877811-2

C9979 ¥600E

1929979006006

定価 本体600円+税

雑誌 44268-11

3

翠星石が登場して混戦を極めるアリスゲーム。
真紅と契約しようと立ち上がるジュンだが、
実体化を目論む雪華綺晶に行く手を阻まれる。
翠星石が「まかなかった」世界にやって来た真の目的とは？
薔薇乙女それぞれの思惑が交錯する中、
ジュンはある重大な決断を迫られる――。

YJ ヤンジャン YJC

ローゼンメイデン

PEACH-PIT

集英社

祈り、捧げよう。

すべては貴女のために。

PEACH-PIT
直筆サイン入り

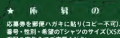
PRESENT
MANGART BEAMS T×ローゼンメイデン コラボTシャツ

貴女と宝・薬3トール家屋石、
確い決意を胸に、今再びアリスゲームへ。

絶賛発売中!!
「Rozen Maiden(薔薇乙女)」全7巻
原画「Rozen Maiden」

PEACH-PIT

MANGART BEAMS T
ローゼンメイデン コラボTシャツ
2月19日発売!!



★価格:5040円(税込) ★サイズ:XS(レディース)、S、M、L ★カラー:ミントグリーン

商品のお問い合わせ『MANGART BEAMS T DAIKANYAMA』
★電話:03-5428-5952 ★住所:渋谷区猿楽町19-6 2F
★営業時間:11:00~20:00 不定休
http://www.beams.co.jp/shop/east/daikanyama/beams-t-daikanyama.html
オンライン通販『BEAMS ON LINE SHOP』http://shop.beams.co.jp/shop/beams/

PEACH-PIT直筆サイン入りのTシャツを10名にプレゼント!

応募のきまりは帯の裏をご覧ください。

週刊ヤングジャンプにて大人気連載中!!

PEACH-PIT

©集英社

★ 応募のきまり ★

応募券を郵便ハガキに貼り(コピー不可)、あなたの住所・氏名・年齢・電話番号・性別・希望のTシャツのサイズ(XS・M・Lのいずれかひとつ)を明記して、下記の宛先までご応募ください。

★宛先:〒101-8052 神田本店 郵便私書箱第6号
集英社『週刊ヤングジャンプ』編集部 「ローゼンメイデン」Tシャツプレゼント」係
★締切:2010年3月5日(当日消印有効)
★発表:賞品の発送をもって代えさせていただきます。

- ご応募者多数の場合は厳正なる抽選にて当選者を決定します。
- どのご応募いただいた個人情報は本企画遂行以外の目的に利用することはありません。
- ご応募は著作権のないようにしっかりと貼り付けてください。
- 応募のさきずが守られていない場合、賞品の発送ができない場合があります。
- 抽選結果に関するお問い合わせにはご対応致しません。ご了承ください。

ローゼンメイデン ISBN978-4-08-877811-2

ローゼンメイデン
集英社

ローゼンメイデン
3

ローゼンメイデン 3

contents

TALE 13 敵か味方か ... 3

TALE 14 薔薇の指輪 ... 19

TALE 15 誓いのキス ... 43

TALE 16 声 ... 69

TALE 17 過去・現在・未来 ... 96

TALE 18 次の扉 ... 123

TALE 19 まやかし ... 151

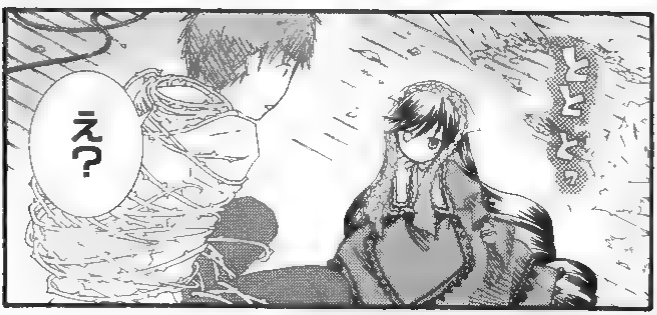
ばしん
ばしん

TALE 13
この局面に来て
新しいドールって…
敵なのか
味方なのか……
それ以前にこいつは……

TALE 13

確実に空気読めない

す……
翠星石
貴女(あなた)が何故
この世界へ…
とっくに狩られたと
思っていたわ


とことこ
え?

な…何…
じぃー

もろもろの話は
あとです
それよりも…

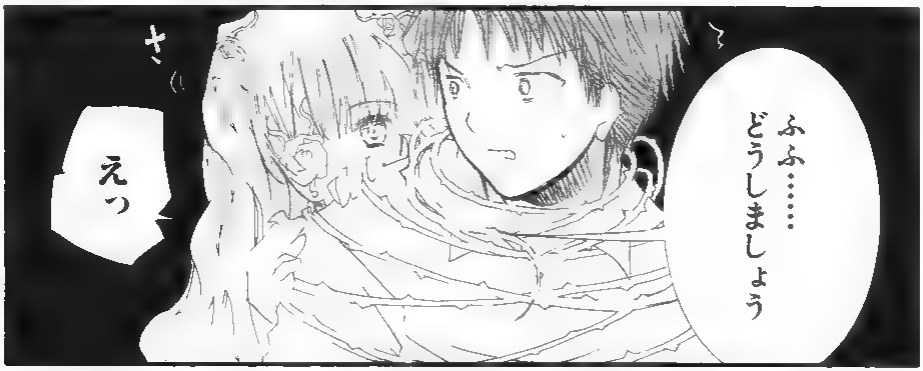
これがまかなかった
世界のジュンですか…
ふぅ――ん…
チビ人間だった
分際で随分と
デカく育ちましたねぇ
なっなっ
なんだとこの…
きゃ――
とととと
怒ったですぅ
コワ――イ
けどこの不様な
とっ捕まり具合からして
肝っ玉はあいかわらずの
プチサイズと見るです
でかチビ人間
なっ
な…
なんなんだ
この腹立つ
人形は…
これが
翠星石…
お会いできて
光栄です…
はじめまして
翠のお姉さま…

七人目…！
確かに会うのは
初めてです
あん時ゃ
世話になったですね
うふふ

あの時…？
聞くまでも
ないわ
あの子も末妹の
一計にはめられた
一人って事よ

あの
ミルクのような
霧の中で
白薔薇の
仕掛けた
罠に…

さあ
どうするの？
末妹
群れるのは好かないけど
これは多勢に無勢の
ようだわよ


ふふ……
どうしましょう
えっ

さあ行くわよ
真紅！
翠星石！
貴女もおわかり
でしょうね!?
ボディを
狙うわよ！

伸びやかに！
健やかに……

！
何…!?
だめですっ！
この体（ボディ）を
傷つけないで…！

翠星石…？

はっ…
おばかさん

そう！
やはり貴女
加勢じゃなくて
敵に回るために
来たの！

まぁ…
翠の姉さま

うれしい…

私たちも共に
参りましょう…
マスター…

？

うわぁああ

ジュン！

ぐっ……
う…
力が…
抜けてく…？
かく…
契約無しに
ジュンから力を…
チッ…あれは
私用の媒介
だったのに！
なんでもアリね
あの子
ああ
潤む…
潤むわ！

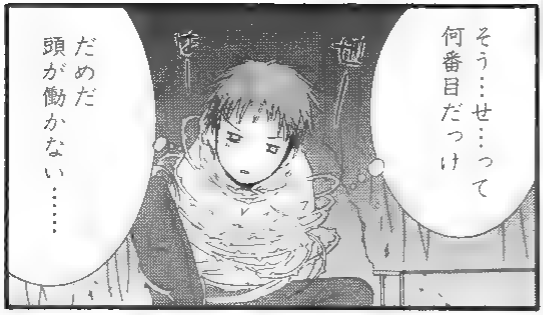
きゃっ…
翠星石！
ッ…
ちっ

くうぅ〜〜
すっ翠星石は
一歩も退かないん
ですからぁーッ
ダメったら
ダメなんですぅ
翠星石！
この期に及んで
空気
読みなさいよ

あぁ…
…ああ…
花弁が
開いていく…
実体化が
近づいている
のだわ…！

翠星石！
お願いよ
そこをどいて！
だめ…だめです
あのボディだけは
守らなきゃっ…
何故…？
貴女がそこまでして
守ろうとする
ボディって…
まさか…
うっ…
反応が
始まった…
私の胸の
もうひとつの
ローザミスティカ
……！
あの
ボディは
蒼星石の
ものなんです！

TALE 14


そう…せ…って
何番目だっけ
だめだ
頭が働かない……

くだらない感傷ね
双子人形だからって…
死んだ子の齢は
数えるもんじゃ
ないわよ

そう…！
やはり…
貴女が
雪華綺晶を守る
理由はそれ…

いいえ…

いいえ
お姉さま…
！

だって 私たち
約束したんですもの
「ずうっと一緒」って…

翠せ…!?
あ…あれは
お前に言ったん
じゃあ…
ぐっ…
ふふ…
人喰い薔薇…
タメだ
今度こそ
全員やられる
どうすれば…

雪華綺晶に体を
与えてしまったのは
僕のせいだぞ
助けるどころか
逆に利用されて…
力を吸われて今度は
実体化の手助けまで…
ダメすぎたろ
僕…
何もできなくて…
過去の自分まで
失望させる…
今になって一体
何ができるって…
契約……
真紅!!

契約！
僕に契約させてくれ！
どうすればいい？契約書か何かにサ…サインとか？
なんでもいい早く！
僕にできることなら…
!?
ホーリエ!?
ぽと

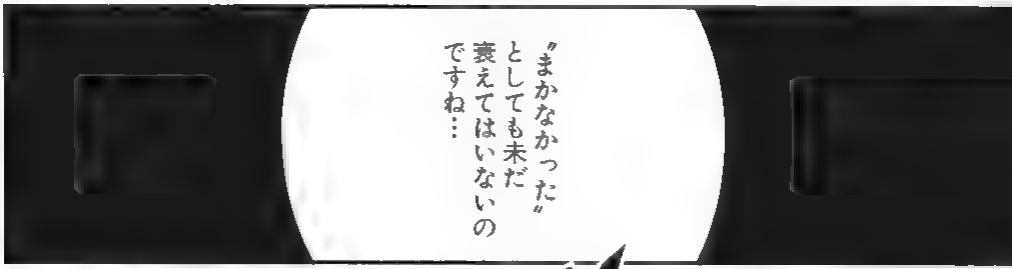
待ってジュン！
それは薔薇の指輪…
確かに契約の指輪よ
けれど それを
付けたら貴方は…
否応なしに
巻き込まれる事に
なる…！
〝まいた〟ジュンは今
そのせいで危機に
陥っている
貴方だって
或いは…
できる
僕ならできる
だから
お前もできる
できる！
僕ならできる！
できない事なんか
何もない…!!

でき…
ぐッ…!?
ガッ
いけませんマスター
他の薔薇に
目移りなんて…
貴方は
私のもの

大事な大事な
マスター
私はずうっと
貴方が欲しかったの
そうしたら私も
紅薔薇のお姉さま
みたいに
なれるでしょう…?

ジュン！
私…誰かのマスターはみぃんな欲しくなってしまうの
ひ…ひとには目移りするなとかっ…
うふふ…
良いのよ
良いのよ
良いのよ
貴方は特別…
あぁ…この指…

この指が私を
造り上げて
下さったのね
無から有を
生み出す
マエストロの指先


〝まかなかった〟
としても未だ
衰えてはいないの
ですね…

!!
これは私の
指輪
誓いはキス
キスは誓い
さあ
マスター…

や…や…
やめ…
待ったぁああ!!
え…

翠星石！
そっ…その契約
待ったぁあ！です
今 雪華綺晶と
契約されてしまったら
そのボディは完全に
そいつのモノですっ！
そっ…
そうなる位
なら…
元チビ人間！
こっちの指輪と
契約しやがれ
ですぅ!!
え――っ!!

翠星石!?

翠星石に任せるです！
蒼星石のボディも取り返して
みーんな解決です！

そもそも元凶は
お前です！

男なら責任
取れやコラですぅ！

そ…
そんな…

それにこの…

!!

くだらないわ…
そこまでに
なさいな

死んだ姉妹の
ボディを後生大事に
繋ぎとめて
なんの意味があるというのよ

水銀燈…

よくも
しゃあしゃあと…

蒼星石の
ローザミスティカを
掠め奪っておいてッ…

そこに直れ
ですっ!!
蒼星石の事になると相変らず短気ねぇ
後から来たくせに勝手だこと
いい?
あの人間は私のものよ
へっ
尤も
別に他の誰だって構いやしないけど
例えばこのデパートガール

斉藤さん!!
貴方の選択次第ではここに居る人間たちを糧にするわ
私は別に誰でも構わないのだから…!

水銀燈!
アンタってお人は――!!
やめろよ…!なんでそんな事…!
何故?
指輪のない私は交渉に不利だからよ決まってるじゃない
だいたい…

人間…
私との約束を
お忘れでない
でしょうね？
貴方には私の
媒介になる役目が
残ってるのよ……
えっ
え…
ジュン…
キ――ッなんです
この尻軽人間っ！

な…何…
これ……
モテ期!?
人生初の
モテ期
到来!?

…っていやいや
相手全員
人形だし…
ふふふ…
どうやら選べるドールは
ただ一人のよう
ねえマスター
私にして下さいな

私なら
この世界を
変えてさし上げ
られますわ
この可能性を
失ったはずの世界を
貴方の…
望む通りに
もう戦わなくて良いの
苦しまなくて良いのよ
過去を変えて
〝今〟を正しい形に
貴方の居るべき
場所になる――
居るべき
場所――…

ジュン…
惑わされないで
過去を変えても
今は変わらない…
人が変えられるのは
未来だけだわ
あら お姉さま
必死ですこと
それもそう…
ご自分の命が
懸かっているのですもの
ね

ねえマスター…
真紅お姉さまの
ボディはレプリカ
それは作った
貴方が一番
よくご存じ
——仮に今
契約の相手に
彼女を選べば…

まがいものの体は
契約に耐えられない
本物の体が
別の世界にある以上
彼女の内にある
ローザミスティカは
存在を双方から
引っ張り合われる
事になります

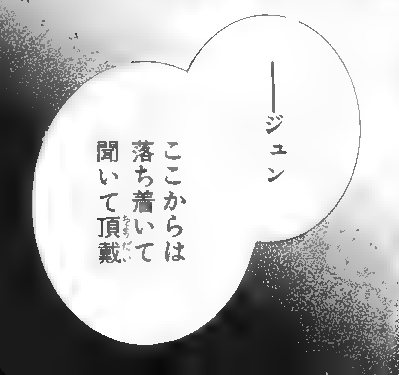
そして…

千々に砕け
散る…！

あはは！
確かに真紅を
選ぶのは得策
じゃないわね
どの途放って
おけば もうじき
消えるのだけど

……
真紅…
本当なのか？

ええ…
可能性としては
有り得るわ
そして水銀燈の
言うのも本当…
この空間の時間が
動き出せば私は
消滅する
レプリカの体の
タイムリミットよ


――ジュン
ここからは
落ち着いて
聞いて頂戴

レプリカの私の体には
契約が負荷である
ように

貴方にとっても
契約は危険なの

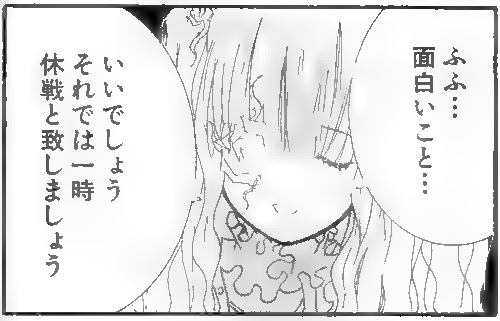
この〝まかなかった〟世界の
パラドックスは今
貴方一人に集約
されている

過去とコンタクトし
この世界にとって異物である
薔薇乙女（ローゼンメイデン）と触れ合った

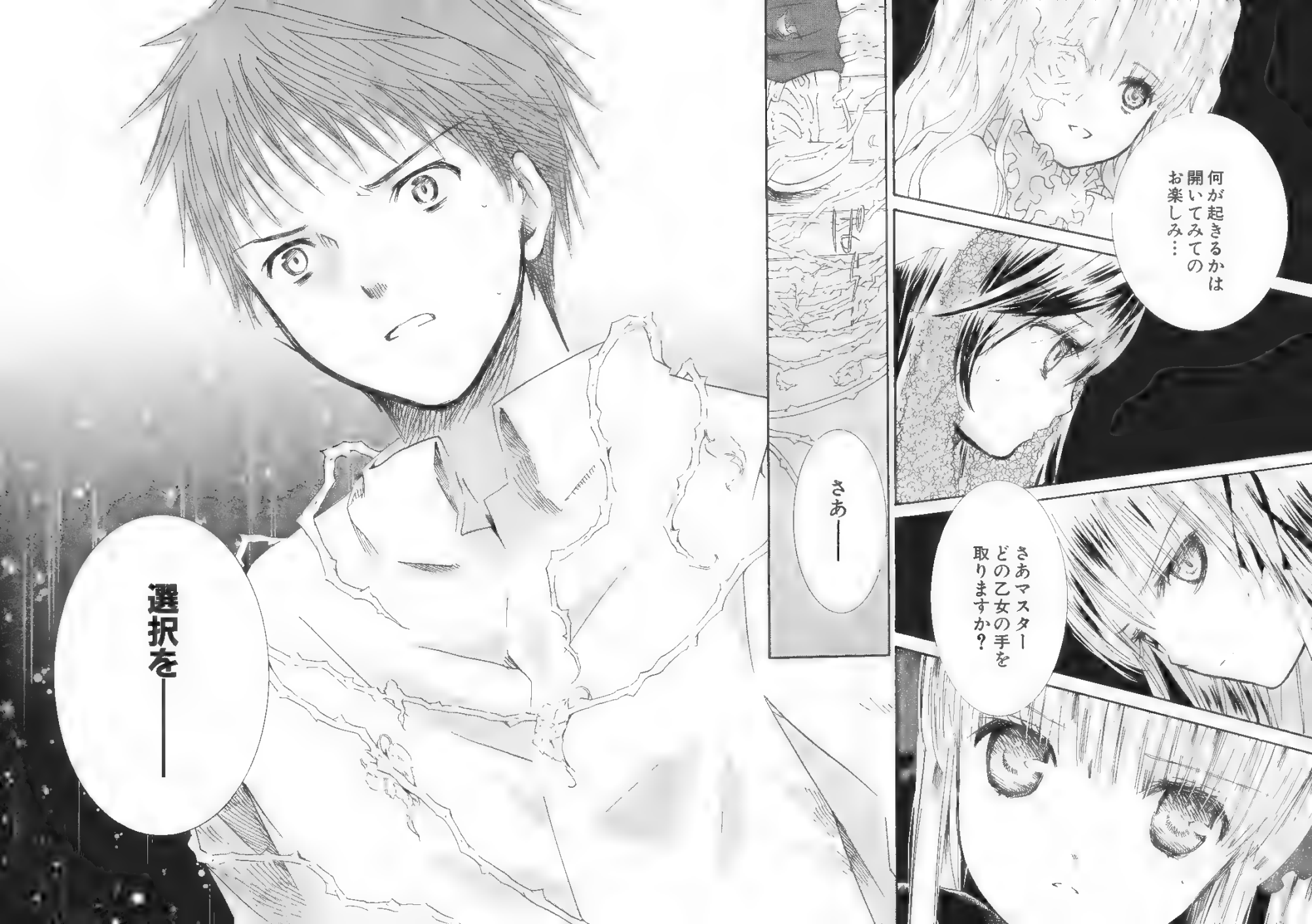
その上
契約までしては
どれだけのリスクを
負うのか――

選ばないって
選択肢も
あるって事です
そこはお前の
気持ち次第です

余計な事を…
そんな答えは
許さないわ
さっさと
決めなさい！


ふふ…
面白いこと…
いいでしょう
それでは一時
休戦と致しましょう

そんな…いっぺんに
言われても
どれが本当で
どれが嘘？
そしてマスター…
どうぞ選んで
下さいな
どれも嘘？
どれも本当？

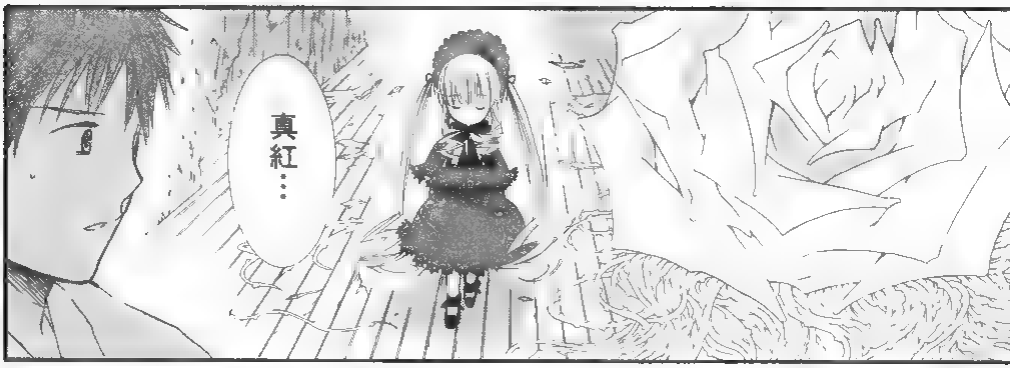

何が起きるかは
開いてみてのお楽しみ…
さあマスター
どの乙女の手を
取りますか？
さあ――
選択を――

「さあ 選択を――」

TALE 15

選ぶ？
僕は
どうすれば…
ジュン…
決めるのはお前よ
人間
何が
正しいんだ？

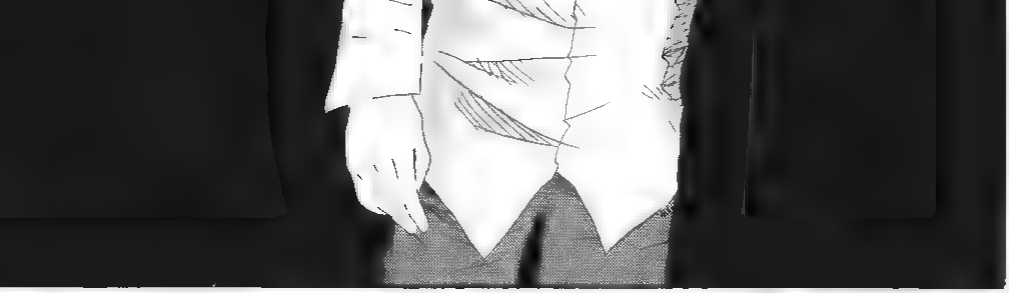
ジュン

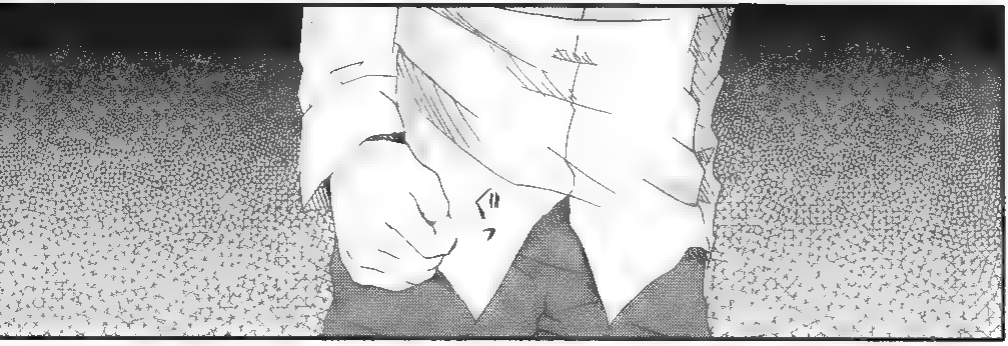

真紅…

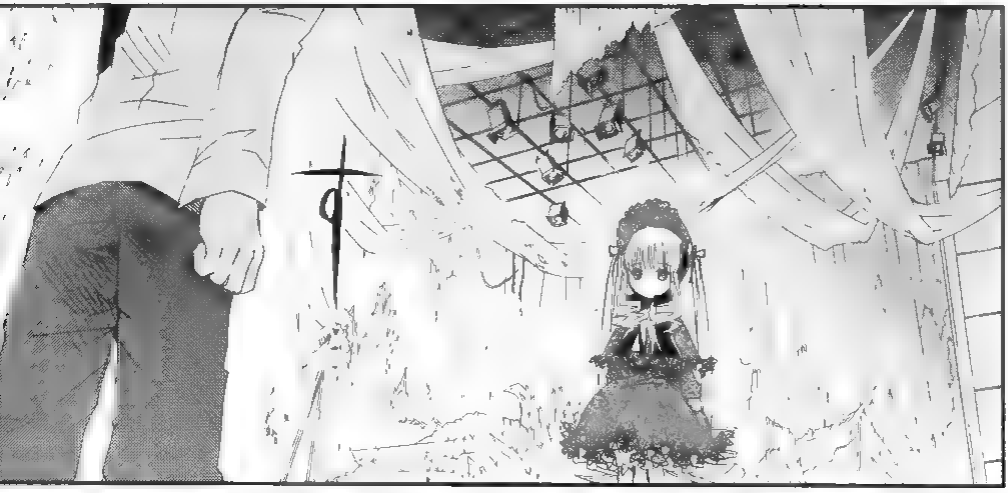
悪かったと思っているわ
巻き込んでしまって…
貴方の この世界の
幸せや存在意義を
私たちのような
異界の闖入者(ちんにゅうしゃ)が壊す
権利など無いというのに

貴方を巻きこみたくはなかった…本当よ
ごめんなさい
ごめんなさい…
貴方には関係のない事だわ
何でもないわ
貴方と契約したのはまたもとの木阿弥だし
そうか…
そうだったのか

僕がこの手で
例えレプリカでも
自分の力で
作りあげた
はじまりの人形
真紅
悔いのない選択を…
どうか貴方の好きにして
だからせめて…
僕のために…
つき放した態度も
何も話さなかったのも
全部
僕の作った人形
少女人形つくり方




ぱっ



真紅を選ぶ気…？
ジュン…

!!

ジュン
早計は命取りだわ
マスター…
お手つきは
二度まで…
雪華綺晶

なんてこと…
選ばせるだとか
言っておいて…！
なんでもアリなようね
あはは！いいわよ！
それは私の媒介！
力ずくで頂こう
じゃない！

どいつもこいつも～
これじゃ
滅茶苦茶
ですよっ
ぐっ…

いいのよ！
いいの！
最後に私を
選んで下されば
それでいいの！
さあ！
いらして
マスター!!

ジュン…

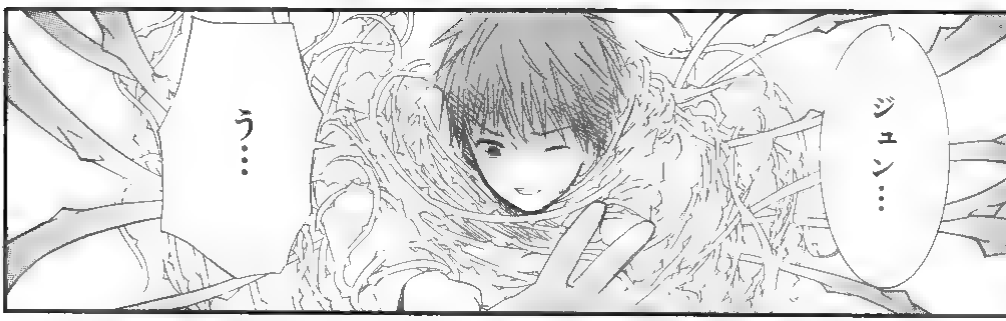
ぐっ…
さぁ…
マスター…
いや…だ…っ

それこそ
させるもの
ですか
メイメイ！

させない
ですよ
スィドリーム！
指輪を!!
元チビ人間の
ところに…

ジュン！
真…紅…
手を…
指輪が…
……
レンピカ…
ジュン
だめ
契約したら
私はともかく
貴方の身が…
僕はどうなっても
いい…
もしお前がバラバラに
なったとしても…
ぼ…僕が…

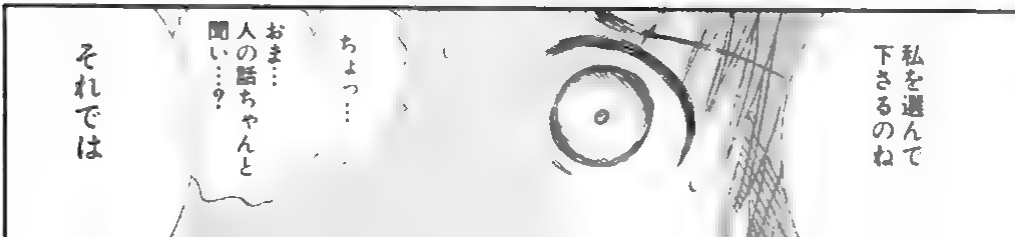
僕が何度でも
作り直すから
だから…
大丈夫だから


ジュン…
う…

うわっ

緑の…
チカチカ…？
…何？
なんだ…？

指…輪…？
契約しろって？
けど…ごめん
僕はもう
決めたんだ…
僕は真紅を…
結局
まあ…
うれしい
マスター


私を選んで
下さるのね
ちょっ…
おま…
人の話ちゃんと
聞い…？
それでは

そんな指輪は
放っておいて
ほら…貴方の
口づけは
ま…待て
私の指輪に…
そうは
させるか——ッ
わ——ッ
です！
いいえ
こっちよ！
ずるいわ
お姉さま方
わっ…
わっ

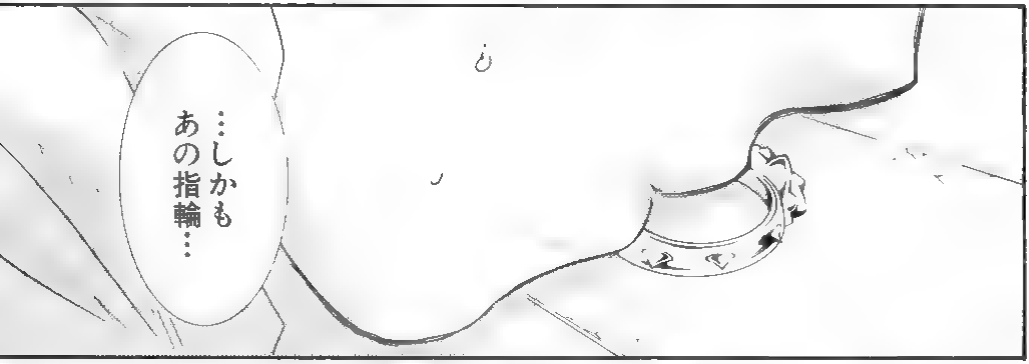
きゅう
けっ 契約
こんな――ッ!?

えっ…えーと
こういう時は
たしか
引っぱりあって…
左腕を
ちぎった方が
勝ち…
それです!

貴女たち
いい加減に
なさい!
ジュン!

Hell
たっ
べちっ
僕
これ…
死ぬんじゃ…
…ん？
あんたが一番ひどいんじゃないの？
貴女たちなんて事…
ジュン大丈夫!?
ジュ…

誓いの…
口づけ…

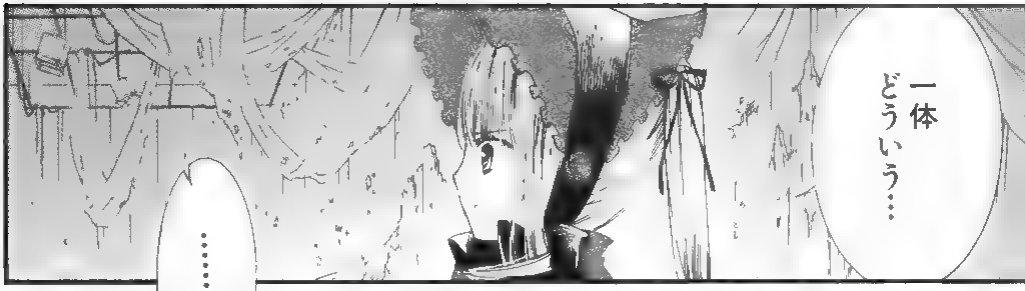

…しかも
あの指輪…

翠星石…

あれは翠星石の
持っていた
指輪です

――でも

契約の相手は
別にいるですよ…


一体
どういう…

……あ
カタ
カタ
カタ
あ…ァ…
カタ
ア…

あぁあああッ
！
やっと…

やっと……
会えたですね…
まり…
！
オッドアイ…
あの瞳の色…
蒼星石

そうです！あの指輪は蒼星石のもの!!
そのボディ返してもらうですよ雪華綺晶!!

馬鹿な！ローザミスティカを失った蒼星石の指輪が何故…
ぐっ

！

！
水銀燈
貴女…

はよ
はあ
そう…そうよ
蒼星石の
ローザミスティカは
私の内にある
でも返す
ものですか
絶対に
返さない…！

TALE 16

あぁ…

あぁあああ

やっと…

やっと会えたですね…
蒼星石！
そう…そうだったのね…
何故気づかなかったのかしら…
蒼星石は水銀燈にローザミスティカを奪われ物言わぬ人形になった
けれど私たち薔薇乙女に「死」はない……
ただ〝魂が遠くに行くだけ〟――
執念深い子…！
どこまで双子の妹が大事だって言うの…
蒼星石…!?
僕の唇のぶつかったあの指輪が…？

ローザミスティカが
失われれば人形は
眠ったままで その帰りを
待ち続ける
たとえ自らの手で
それを手放したとしても
彼方から呼び戻す声が
聞こえたのなら…
そうです…！
新たなマスターを得て
ローザミスティカが戻れば
蒼星石もきっと…！
……
マスター!?
さっきのアレで!?
偶然とはいえアレで
契約って事に
なっちゃったのか
あの指輪は
翠星石でなく
蒼星石って
人形のらしい
でも…

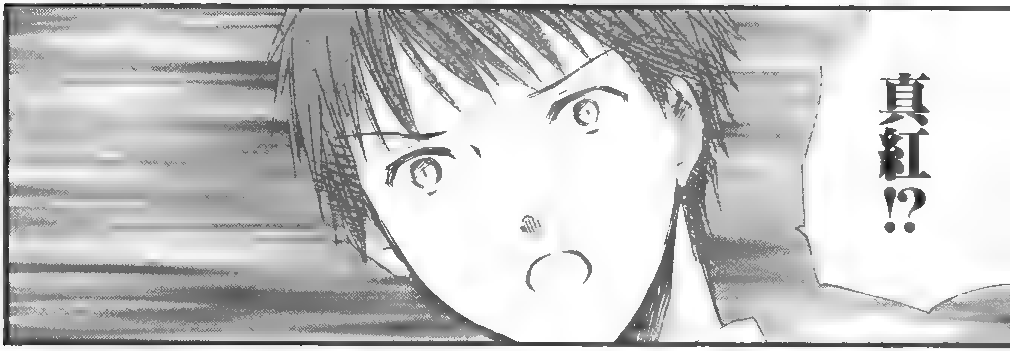
蒼星石って
一体どんな…!?
いや…
いや…
いやよ…
せっかく手に
入れた…
私のボディ…
私の…
あ…!
あ…あ
あああ!!
来たです
拒否反応
ですっ!
何…?

あぁ…あ
ローザ
ミスティカ…！

さっきの契約によって
ボディに残っていた
蒼星石の記憶が
呼ばれてるのです
それに雪華綺晶の
ローザミスティカは
この世界で まだ
実体化していない…
相容れないボディと
ローザミスティカが
反発し合っているです
この不安定な状態を
待ってたですよ…！
ああ…
ぼさ

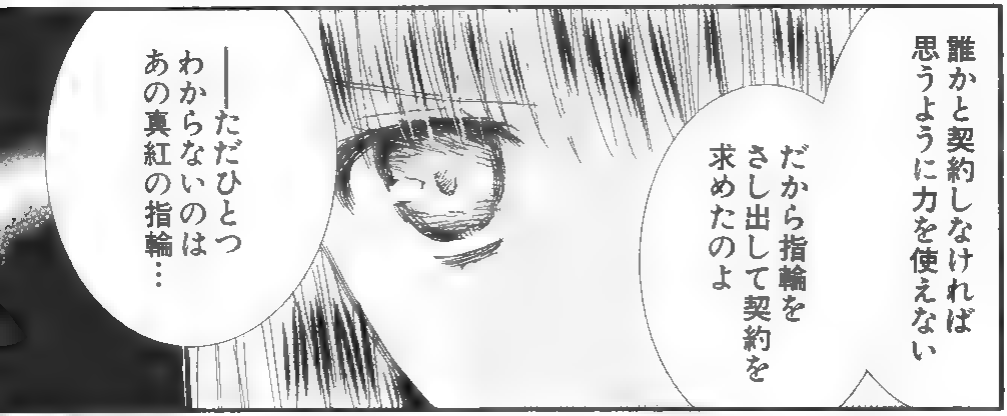
マス…
マス…タ…
マスタ…
マ…スタ…ァ…
……
さあ水銀燈！
そろそろ観念
してもらうですよ！
このスキに蒼星石の
ローザミスティカを
埋め込むです！
！
いやよ
誰が…

!!


真紅!?

力がぬけて…
そろそろ限界のようね…
翠星石も真紅も媒介なしの戦いですからね…
く…もう少しだったのに…

はっ…
残念だったわね
おい
水銀燈！
どういう事だ
聞いてたはずよ
お馬鹿さん…
薔薇乙女が戦うには
媒介が必要なの
私は例外よ？
どうやらあの末妹もね
でも他の
姉妹は違う…


誰かと契約しなければ
思うように力を使えない
だから指輪を
さし出して契約を
求めたのよ
——ただひとつ
わからないのは
あの真紅の指輪…

指輪は本来
一人の乙女にひとつだけ…
指輪を失えばその時の
アリスゲームを降りたと
見なされ
ローザミスティカを
差し出すかあるいは
次の時代とマスターを待って
再び眠りに就く…
鞄の中で紡がれる乙女の夢は
長い時間をかけて新しい指輪を
創り出すのよ
真珠を抱く貝のようにね

翠星石の持っていたのは
蒼星石の指輪だったわ
そして真紅も
まいた世界のマスターと
契約を解いたと言っていた

二人ともまだ
新しい指輪を
持つには早すぎる

――どういう
事なのかしら……

翠星石…ひとつ
教えて頂戴

貴女はここまで
計算尽くで
このまかなかった
世界に来たと
言うの？

貴女の狙いが
蒼星石の復活ならば
この状況は確かに
千載一遇と言えてよ

でも…
蒼星石のボディと
ローザミスティカが
このまかなかった世界に
揃う瞬間をなぜ
知り得たの？

貴女をこの
まかなかった世界に
導いたのは…

真紅…
本当は貴女も
その答えは
知ってるハズ
ですよ

貴女も
翠星石も
水銀燈も…

全てをここに
導いたのは

お父様…！

…そん…な…
…ああ…でも…

そう…
だったわ…
私は
あの時…
nのフィールドで
雪華綺晶の罠に嵌まり
白薔薇に飲み込まれ
深い闇の底に沈んで行った
そこで見たもの――……
――…光？
私の
可愛い…
…め…

この声は――
!!

ボー
これ…！
またあの時計…
ボー
ボー
しゅる
しゅる
あっ

蒼星石…！

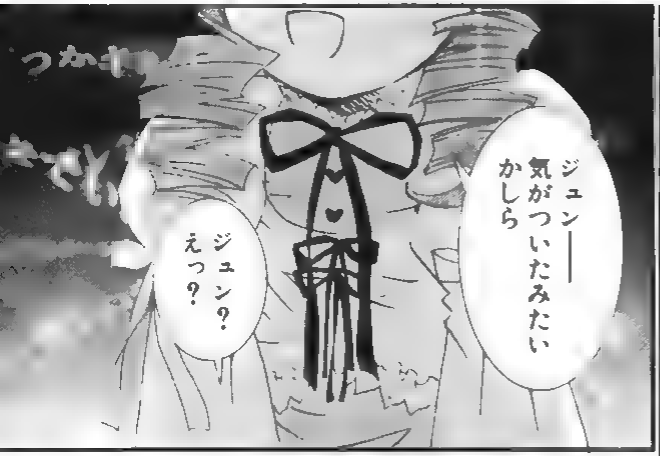
ああッ
水銀燈！
お願いです
蒼星石の
ローザミスティカを…
いやよ！
絶対に返さない
これは私のよ
私の
ローザミスティカ…
っ…
どこまでも
強情な…
仕方ない
です…

蒼星石！

待ってて下さいです
蒼星石…
雪華綺晶から
解放してあげる
ですからね……
遅くなって
ごめんなさい…今
別の
ローザミスティカ
を……
!?
ううっ…
時計が…

——…え……

ここ…は…？


ジュン——
気がついたみたい
かしら
ジュン？
えっ？

なんで僕の
名前…
…え

ぴよ
おきた
かしら!?
わっ

こいつも
人形…？
ローゼン
メイデンか？

おい
大丈夫か？

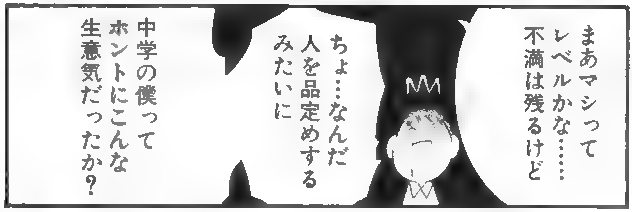
へ――コイツが
大学生の僕か

中学生の僕――！
よう
僕

TALE 17

中学生の……
僕…？
やっと
会えたな
大学生の僕

じ…
ふうん…
へ――ぇ…
…な…
なんだよ…
最悪ってほど
でもないな
髪染めたとか
浮かれた事聞いて
どうなってるかと
思ったけど


まあマシって
レベルかな……
不満は残るけど
ちょ…なんだ
人を品定めする
みたいに
中学の僕って
ホントにこんな
生意気だったか？

やっぱり
生意気な…
じー…

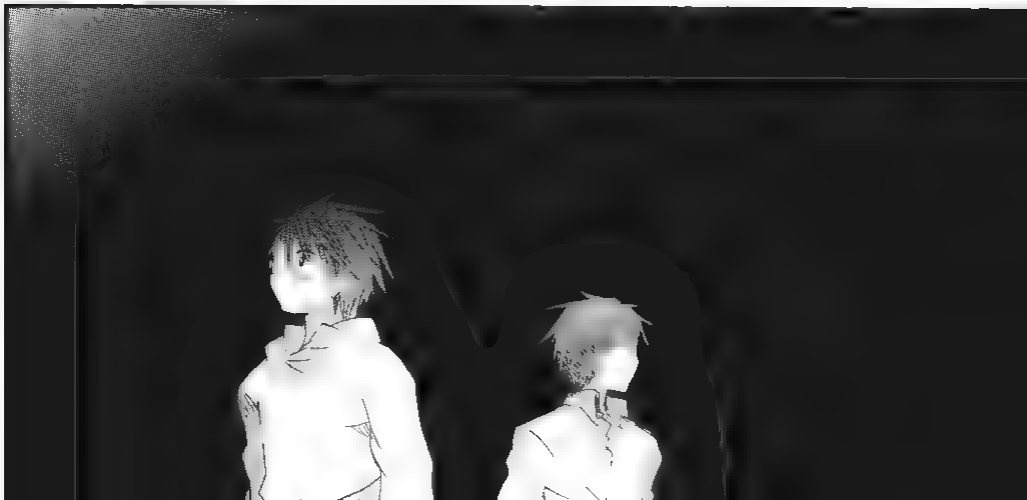
過ぎ去った思い出は
美化されるもんさ
安心しろよ僕は
間違いなく
昔のお前だから

ん？
さっ
えっ
な
さっ
ふふ…
どうやら
見つけられて
しまったかしら
ぴょ

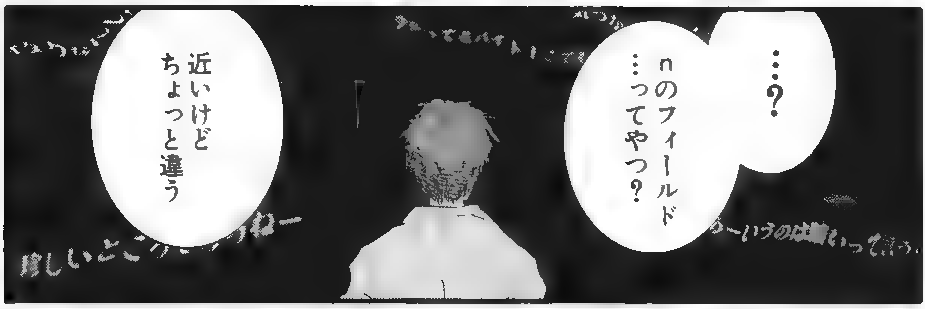
え…
さっきから
そこに
さすがは
大きいジュン…
ビッグ・ジュンかしら
行くわよ
ピチカート
我こそは
薔薇乙女一の
策士にして才媛！
泣く子も黙る
乙女番長
ローゼンメイデン
第二ドール…

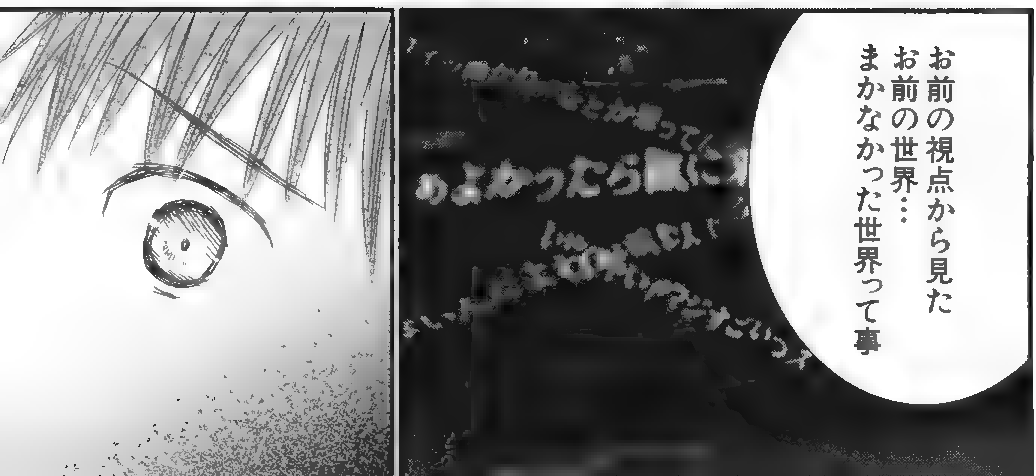
金糸雀だっけ
かっ…な
真紅から聞いてるよ
たしかマスターはみっちゃんとか言うOLさんで…違った？
アスー
口上ジャマして悪かったかな

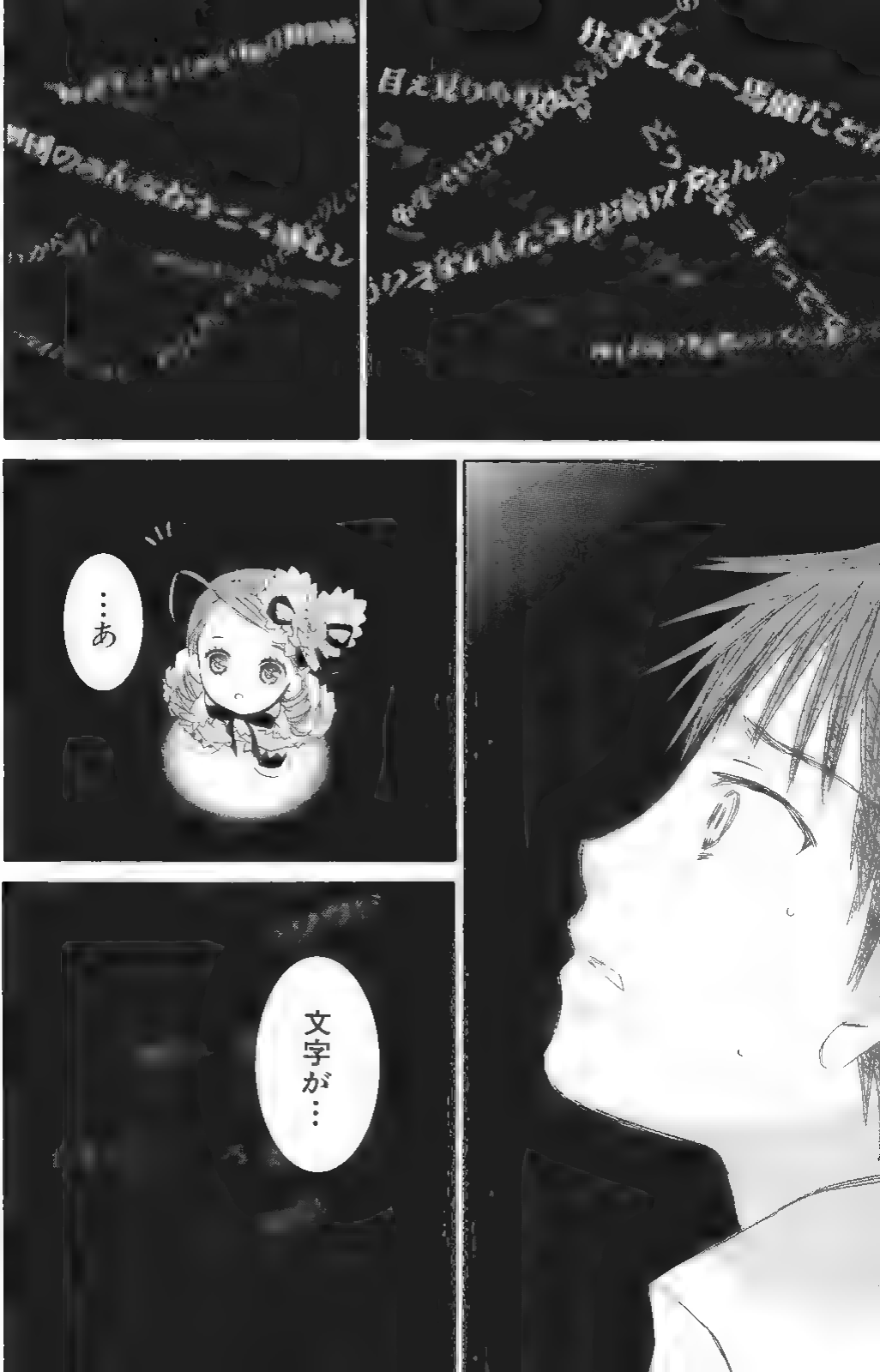
そうだ真紅…！真紅たちは…
はっ
舞台は!?
まぁ落ちつけよ



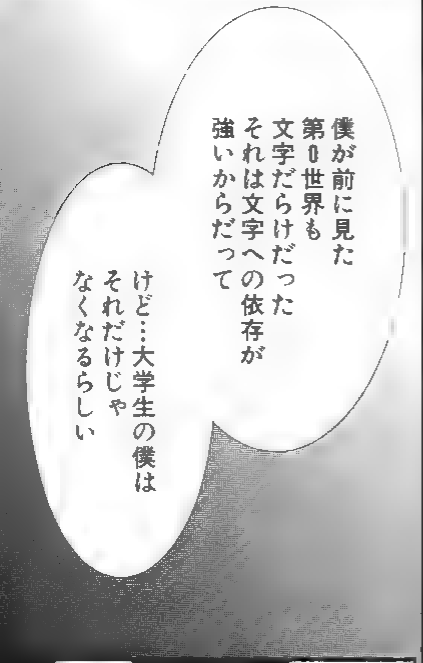
ここは……
第0(ゼロ)世界
別の世界から
見た
現実世界ってやつだ


…？
nのフィールド
…ってやつ？
近いけど
ちょっと違う


お前の視点から見た
お前の世界…
まかなかった世界って事


…あ
文字が…

まっ暗……
これが大きいジュンに
見える世界？
うん…

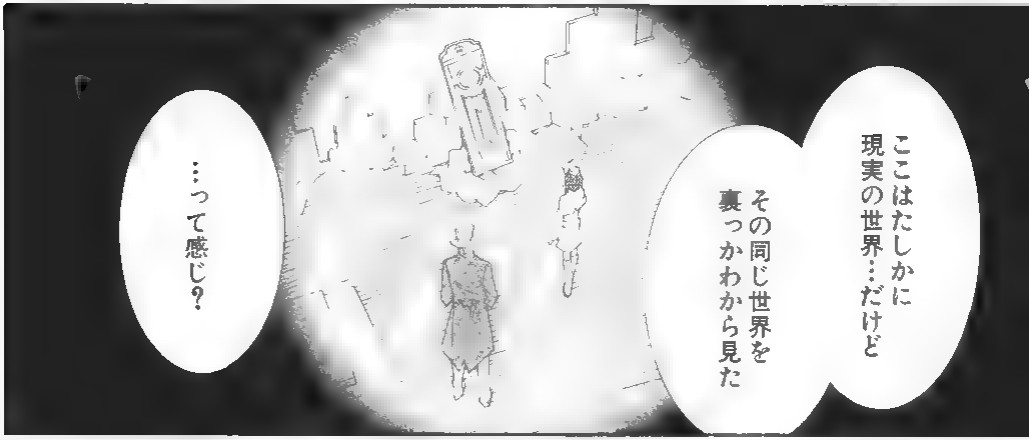

僕が前に見た
第0世界も
文字だらけだった
それは文字への依存が
強いからだって
けど…大学生の僕は
それだけじゃ
なくなるらしい

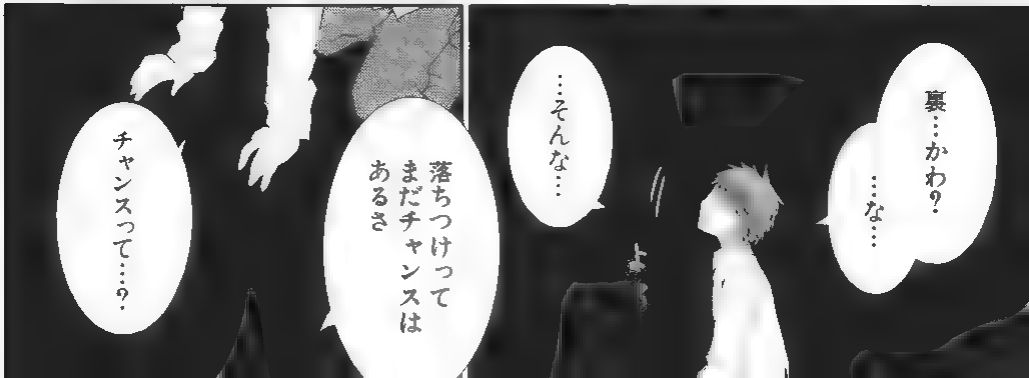
それはつまり
お先まっ暗って
事かし…
むぐ
言うな
ぱし

あ！
見てジュン！
光が近づいてくる…！
ズ
元の世界に戻れたのか!?
斉藤さん…あれは舞台の続きだ
ウ

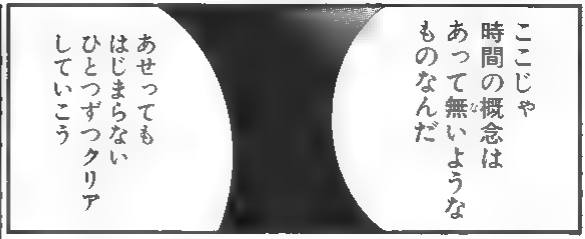
いや…違う…
おかしいぞ
衣装が
変わってるし…
人形も真紅じゃない
そうか
「まかなかった
ジュンがいない世界」
を選んだんだ
…「まかなかった世界」は
もうひとつ
新たに選択をした
つまり
お前には もう
あの世界に
居場所はない
行き場所を
なくしたお前は
ここにずっと留まり
続ける事になる

え…え？
待ってくれよ
だってこの
第Ⅱ世界も
僕の現実世界
だって…
それに僕の
「まかなかった世界」には
もう選択肢は…
僕にもよくは
わかんないんだ
だけど…
真紅が言うには
メビウスの輪だとか
クラインの管とか…
要するに
つまり


ここはたしかに
現実の世界…だけど
その同じ世界を
裏っかわから見た
…って感じ？


裏…かわ？
…な…
…そんな…
落ちつけって
まだチャンスは
あるさ
チャンスって…？

まあ あせるなよ
時間ならある
ちょっと
話そうぜ
どゥが
ええ!?
聞いてみたかった
事もあるしさ
いっいや時間なんか
ないだろ全然
早く戻らなきゃ…
真紅たちだって
どうなったか


ここじゃ
時間の概念は
あって無いような
ものなんだ
あせっても
はじまらない
ひとつずつクリア
していこう

なんでお前そんな
落ちついてられるんだよ!
ホントに中学の…
僕だってば
ローゼンメイデンの
事に関しては
僕の方が先輩だし

今はお前が
お前として自分を
はっきりさせなきゃ
冗談抜きで
ここから
出られなくなる
ここは
そういう
所なんだ

僕も以前に
同じように僕にとっての
第0世界に
紛れ込んだ事がある
その時に
自分がはっきりしてなきゃ
迷子になるんだって
真紅が
そう言ってた
真紅…
…話すったって
何を…
さぁ…
なんでもいい
思いついた事
お前の事
話してよ
……
……

……
あー…
じゃあさ
大学行くって
どんな感じ？

僕の事…？
昔の自分に
話せるような
事なんて…

とんなって…
普通だよ
別に何も…
そんな事ないだろ
不登校やめて
勉強して
上に行って…
一人暮らしなんて
今の僕からは
想像もつかない

……
そんな
たいした事じゃない
三流大学だし…
まわりの奴らは
遊ぶ事ばっかりで
世の中出たって
下らない奴ばっかりだ
バイトの店長だって…
あれ…
前にも誰かと
こんな話…
そっかあ…
大学って
そんな感じ…
斉藤さん
私も行って
みたかったなあ…
親はウチじゃ
ムリだって言うし
私の頭じゃ受かるかも
あやしかったけど

私ね
今は役者の勉強してるけど本当は舞台作家になりたいの
舞台…？
脚本書いたり舞台美術とかそういうのやりたくて
憧れてる先生のいる大学で演劇論とか教わってみたかったんだ
勉強なら独学でもできるって劇団に飛び込んだけど
でもやっぱり今でもちょっと羨ましいな…
斉藤さん…
そっか…
やっぱそんなもんなのか
大学なんて…

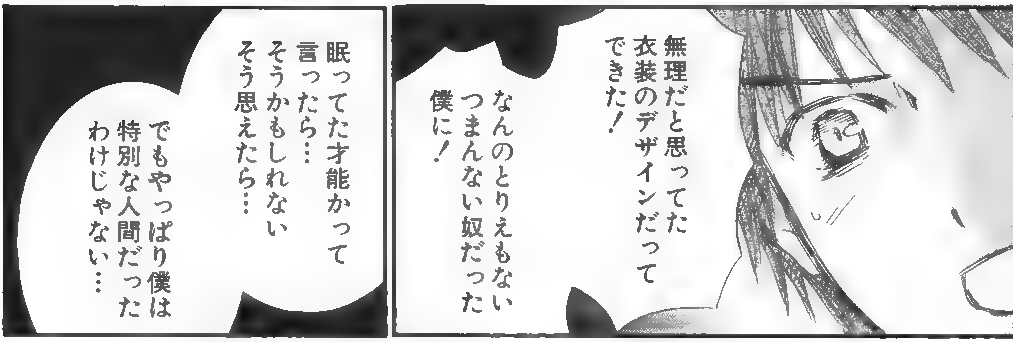
昔から
こうだったか
…？

違う――あの頃は

どうせ何も起きっこないって
未来に何もないって言いながら

本当は
心のどこかで…

違う…っ
違うんだ
なあ僕…
そんな顔するなよ
今は違うんだ
変わりつつあるんだ
中学の僕から
メールが来て
変わってきてる
お前の
おかげ
なんだよ


無理だと思ってた
衣装のデザインだって
できた！
なんのとりえもない
つまんない奴だった
僕に！
眠ってた才能かって
言ったら…
そうかもしれない
そう思えたら…
でもやっぱり僕は
特別な人間だった
わけじゃない…

じゃあ僕は
これまで何を
してたんだ？
もし眠ってた才能なんて
都合のいいモノを
持ってたとして…
なんのとりえもない
つまらない人間
だったのはどうしてだ？

「線を引かれてる感じ」

「自分はここまでっていう天井が」

いや

気づかなかっただけだ

自分で線を引いて——

境界線の向こう側

全ては外界が原因？

そうじゃない

本当はここまでしか

行けないなんて境界線は

本当はどこにも——

目に見えない
線――…

同じように
目に見えない…

やっと
気づいたのね

…真紅…

そう世界は
いつだって
目に見えない
選択肢で
満ちている

気づこうと
さえすれば　誰の手にも
無限に

世界は
選び取れるのだわ

砕けた？
第0世界が？
どっ…
どうなって
いるのかしら
なぁ
まいた世界の
僕
僕は ずっと
思ってたよ
誰も僕を
覚えてない世界は
気持ちいいもの
だろうなって
——けど
さっき見た
あの世界…
悔しかったんだ
だって
斉藤さんの
着てたのは
僕の衣装じゃ
なかったから…
——ありがとう
え…

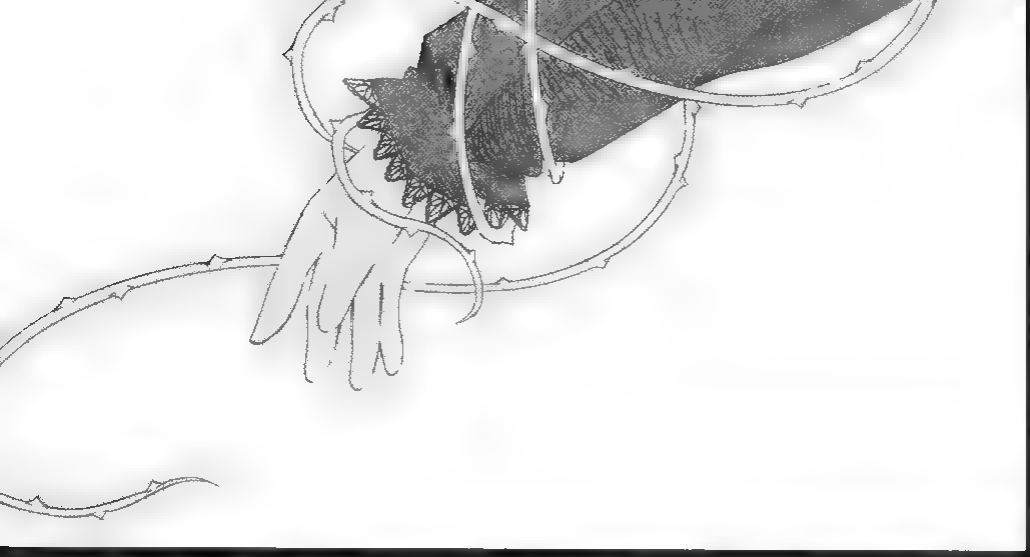
僕 もう
行けそうだ

さよならだ
中学生の
頃の僕
次は

未来でまた会おうな
…！
…言われなくても追い越すけどな
!?

巻き返す！
見ててくれよ
ここから

TALE 18



真紅

真紅

ようやくお目覚め？
いばら姫
ここは
第４２９５１世界……
!?
雪華綺晶…
水銀燈？
ここは…
私たちは一体…
私の世界ですわ
お姉さま方

せっかく
「まかなかった世界」で
器を手に入れたのに…
あんな形で
追い出されるだなんて

第七ドール……
何処に隠れたの？
姿を現しなさい！
決着を
つけましょう
…いいえ
いいえお姉さま
こんな無様な姿を
お見せする訳には
いきませんわ……

口惜しい…
口惜しい…
どういう
事よ
……
口惜しい…

雪華綺晶は
元々実体を
持たないドール

乗っ取ろうとした
ボディの本来の
持ち主である蒼星石が
指輪の契約を交した事で

寄生者である
雪華綺晶は
行き場を失った――

どうやらアストラルだけの
存在である
雪華綺晶には相当の
ダメージだったようね

……

ある…
蒼星石の
ローザミスティカ
まだ
体内に……

じゃあ あの
ボディは…？

蒼星石は
どうなったの!?

貴女が離れた後の
蒼星石のボディは
…!?

自分の世界(フィールド)で
姿を保つ事すら
できないなんて……

ここだよ

…そ…
蒼星石…!!

やぁ
…久しぶり
元気だったかい
ドールズ

…そん…な
まさか
貴女いったい…
待ちなさい
真紅!
あれが本物の
四番目(蒼星石)と思って?
おわかりでしょう
ここが誰の
領域(リトゥグ)なのかを…

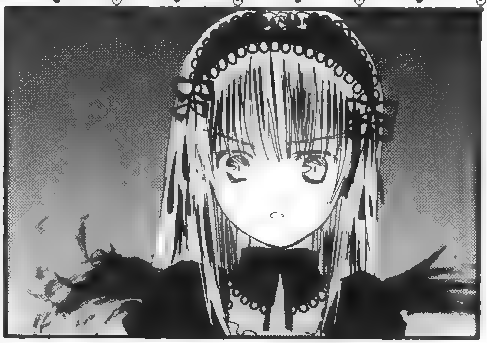
…呼ぶ声が
聞こえたんだ
最初はあたたかい
指の感触と……
「僕だけのドールを」
という縋るような声
それから…
繰り返し誰かの
名を呼ぶ懐かしい声
それは もう
ずっと長い事
探してた名前
僕の名前…
彼方から
迷い子を
呼び戻すように
届く――

は…馬鹿な事
ありえないわ
あの子の
ローザミスティカは
私の中なのよ？
ジュンが…？
まいたジュンも
まかなかったジュンも
やはり
マエストロ――…
エーテルである器が
二つ足で立つには
ローザミスティカが
必要不可欠だわ
だったら あの
蒼星石は何？
七番目の作り出した
偽物じゃないと
誰が言えて？
僕と翠星石は
双子ドールだ
二対の瞳を
二人で分かち合い
同じ服と姿で生まれた
姉妹の中でも
特別に近しい存在

知っていたかい？
7つに分けられた
ローザミスティカのうち
僕らに割りあてられた欠片は

僕らだけで最初から
ひとつだったように
ぴったりと重なる
双子石だったんだって

お父様にそう
聞かされてたよ



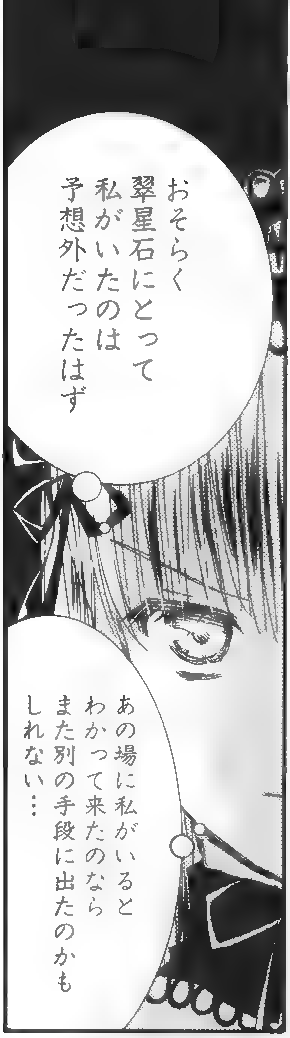
失敗する
可能性もあった
二人とも
壊れてしまう事だって

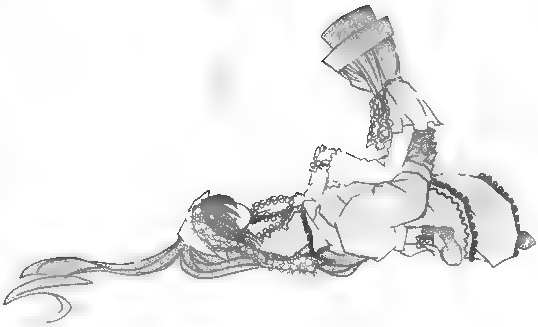
…でも君は
それも
わかっていて

まさか…
だからってその子
自分のローザミスティカを
双子の身体に
入れたというの…？

ずうっと
一緒ですよ…！

僕を
取り戻そうと
してくれたんだ


おそらく
翠星石にとって
私がいたのは
予想外だったはず
あの場に私がいると
わかって来たのなら
また別の手段に出たのかも
しれない…

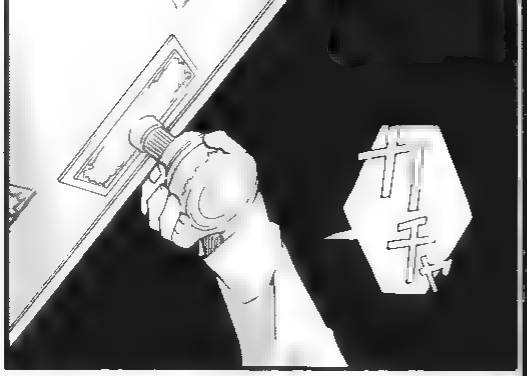


蒼星石…
くだらないわ…
なんてくだらない
これだから
貴女たちは
美しくないって
いうのよ…

僕は一度アリスゲームに
敗れている……
翠星石の考えは
また違うだろうけど
ローザミスティカを
奪った君が勝者で
ある事に異存はないよ
……ただ

本当だね
こんな形は
美しくない
あるべき形に
戻そう
翠星石の
ローザミスティカは
翠星石に
…そして僕は…
…また
物言わぬ
人形に…？
……

とにかく今は
ここから
出る事を考えよう
…そうね
帰ったら皆で
お茶会でもしましょう
…バカじゃないの



ドドド

だから！
この扉の中のどれかって
教えてあげたかしら！
はぁ…
この調子じゃ僕
いつまでたっても
帰れないかしら……
マネしないで
ほしいかしら!!
ここも違う…
ねーえ
ジュン
何
あのね？
もしかしたらよ？
もしかしたら
なんだけど…
だから
何って
第0世界は
壊れたけど…
このまま戻っても
ちゃんと戻れない
かも…かしら
？
は？
だからね
えっと……
さっきちらって
見えた世界が
あったでしょ？
あれが本来の
「まかなかった世界」
だから……
うーんと…
？
？
は
つまり！
メ

私たちローゼンメイデンは
もともと招かれざる
客だったの
ジュンが
「まきません」を
選んだ時点でね
うん…
それはわかる
で そこに
真紅が
現れちゃったでしょ？
来るはずのなかった
「真紅」が来た事で
まかなかった世界は
歪んだ
世界ってものは
イレギュラーを
嫌うものなの
だから
真紅がそこに
存在できる時間は
限りがあったの…特に
仮のボディの真紅はね
まきますか
まきません

……
うん……
おわかり
かしら？
ここから
簡単に
説明すると――

ああんもう！
かしら――
つまりね

〝あった事〟にするには
真紅たちと一緒に
戻らないといけないと
そうじゃないと
これまでの事が
ぜんぶ……

〝なかった事〟
になる…？
そう！

そのタイムリミットが
雪華綺晶との闘いで
来てしまったのね
ぺらぺら
真紅たちが
消えた事で
止まっていた時間は
一気に巻き戻って
ぺら
ちょちょ…待て待て
全然わからん
真紅が最初から
来なかったっていう
ところから
また再生になって…

〝なかった事〟に？
これまで
創り上げた
僕の〝今〟が…？

そんな…
みんなで
時間の止まった
あの時間に帰るの！
そうすれば
きっと…！

…うん

よし…！じゃあ
まずは真紅たちの
いる場所を探そう
ラジャー！
かしらー！
あら？

ジュン
そのキラキラしたの
何？
キラキラ？
そのソデのところ
…なんだこれ
白い……糸？

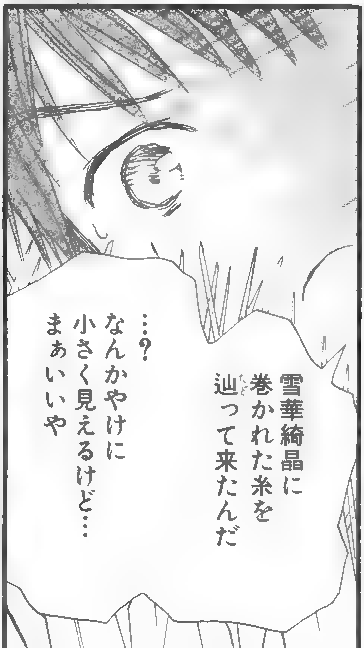
くっ…

だめだわ…
まるで壊れない
綻びは
見えているのに…
あの空洞…
どうやらただの
針状結晶とは
違うようね
まるで交錯した
蜘蛛の巣の
よう…
蜘蛛が捕えた獲物を
すぐに殺さず
糸で巻いて弱らせるように
僕らをここに
留まらせておく
つもりなんだろう

雪華綺晶
どこにいるの!?
答えなさい!
……
もういないようだね…
身を隠して回復をはかっているんでしょう
このまま食われるのを待つっていうの…!?
待って
あれは…
なんだろう…
ヒヤア

おい
みんな…！
!?

ジュン…!?
これは…？
ど…どう言う…


雪華綺晶に
巻かれた糸を
辿って来たんだ
…？
なんかやけに
小さく見えるけど…
まぁいいや

ジュン…
待ってろ！
今助ける！

な…？
あ…れ？

よし…
ビッグジュン…

やっとここまで来たってのにどうしたら…
くそ…見えるのに…
末妹はまやかしが得意なのかしら！本当の真紅たちの居場所は隠されてる！

どうやら目に見える通りには行かないみたい…
あの真紅たちは水晶に映った影なのかしら！

早く元の世界に
戻らなきゃ…
それに

急がない
と――

この糸のせいで
多分もう今頃
まいた僕の居場所も
バレてる

まやかし…
まやかしか…
くそ

フェイクパーツ
だらけの夢も
ひどいモン
だったけど

ゆっきーの
得意技かコレ

フェイクパーツ？

ものすごい数の
パーツの山から
真紅を見つけたんだよ
案外早く見つかったけど…

フェイク…

それだってきっと
全部がそこに
あった訳じゃないわ

きっと残像を
利用して
目くらましを
かけられてたのよ

そう…
なんだ？

残像…
残像…
そうだわ！
え…
ピチカート！
えっ!?

ここからは
カナに
おまかせ！
かしら♡

TALE 19

雪華綺晶の作った
まやかしの世界

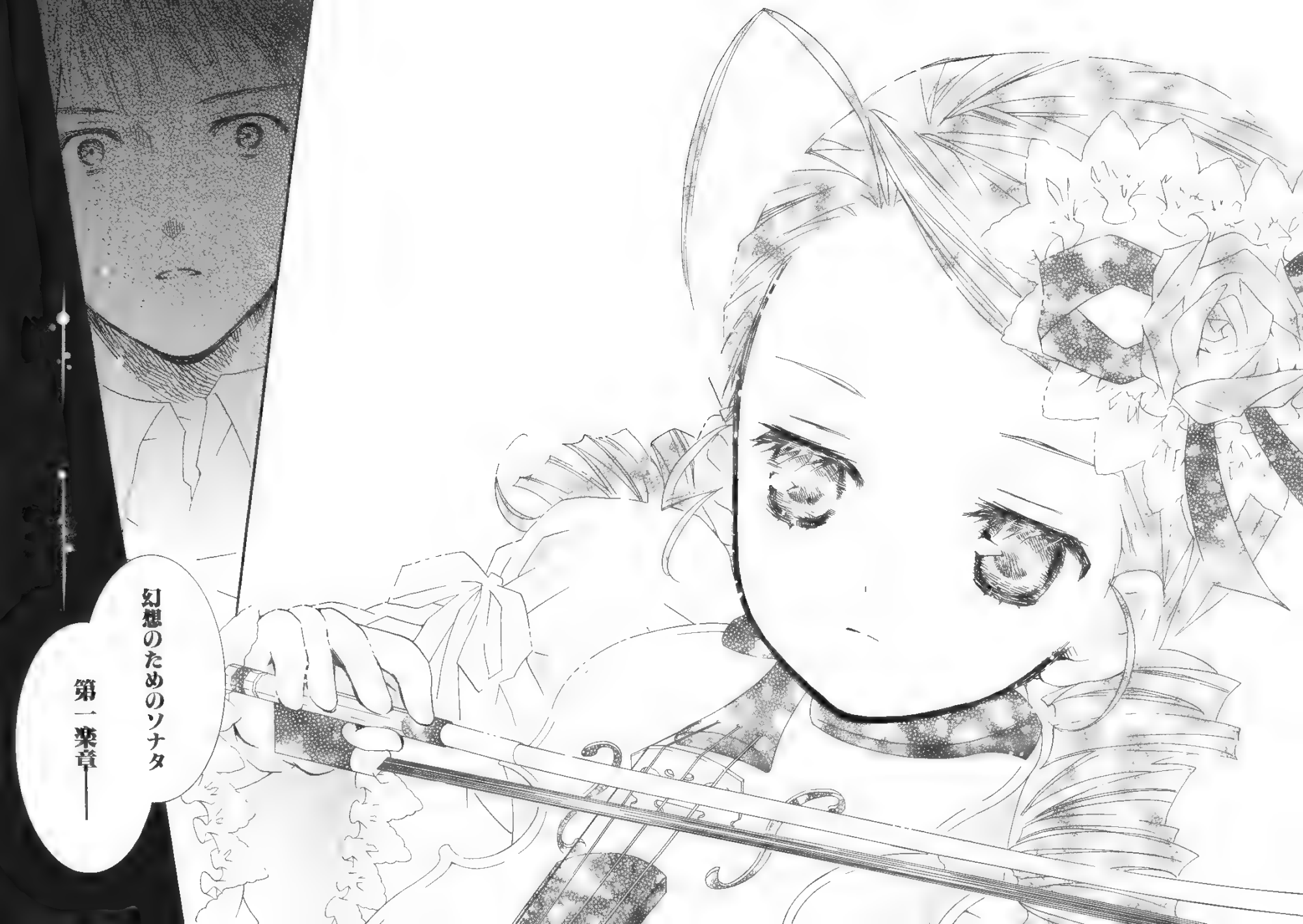
ここを抜け出して
元の世界に
戻るには――

カナにおまかせ!!かしら!!
あーうん
じゃあ…
ナニかしらその薄い反応!!

だってさ――…
おまかせったって
「かしら」だろ？
かしらだからって
なんなのかしら！

いや その…
かしらーって
疑問形で終わるのが
頼っていいのかどうか
って言う…
自問自答
みたいな
イマイチ本人
自信ない
みたいな…
いきなり
カナの全人格
否定かしらッ

いや…
ごめん…
も――
ビッグジュンったら
失礼千万！
かしら
ごめんって
ふんっ
目にもの見せて
あげちゃおうかしら
第二ドール
金糸雀なぁ
かわいいんだけど
なんか危なっかしいって
言うか…
これで
本当い…

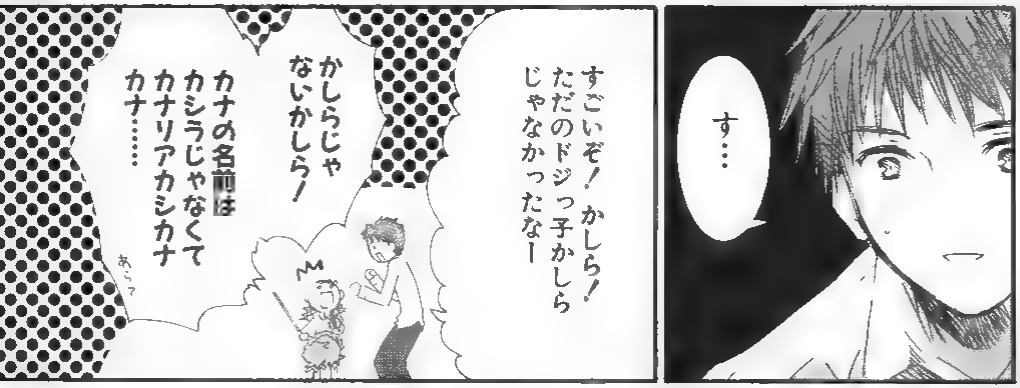

幻想のためのソナタ
第一楽章——

えっ…
なんだこれ
音が
揺さぶる

これは…？
しっ
この音色…
金糸雀？
針状水晶が…！
金糸雀のバイオリン…
あの子もジュンと
一緒なのね
音色を水晶に
反響させるなんて
……

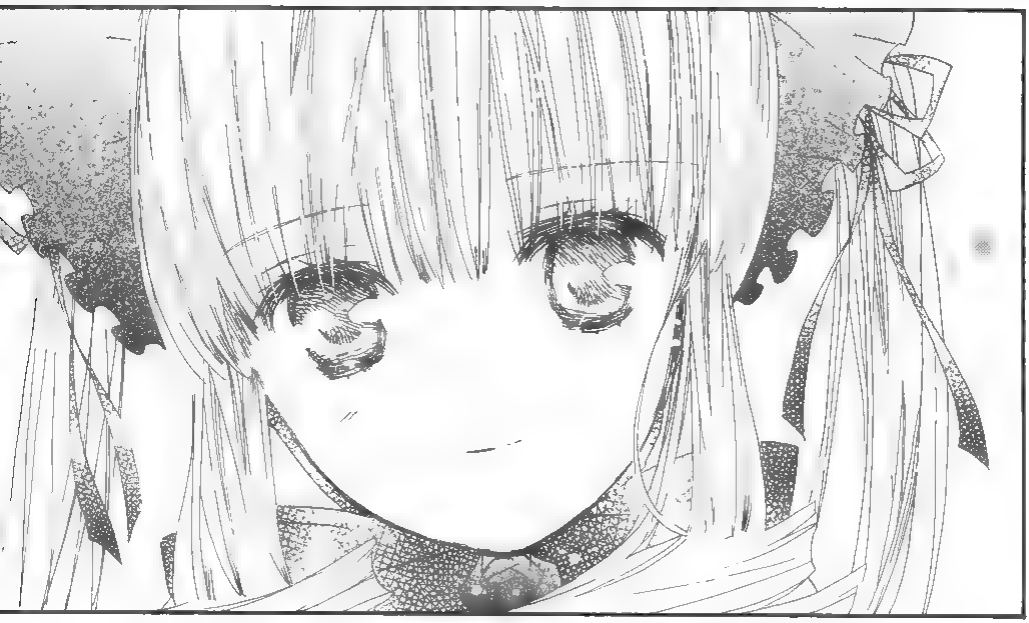
これは…
あれだけあった水晶が…
消えた…

物体に反響する音も
実体がなければ
ただ抜けるだけ
ふ――
あの音色が
幻影をすり抜けると
消し去るのか――！


す…
すごいぞ！かしら！
ただのドジっ子かしら
じゃなかったなー
かしらじゃ
ないかしら！
カナの名前は
カシラじゃなくて
カナリアカシカナ
カナ……
あらっ

すぅ
これで まやかしは
全て消し去ったわ
最後に
残るのは…
はっ

本物の水晶(ぜっかい)——



真紅…

ジュン…

あれだけあった
水晶が…

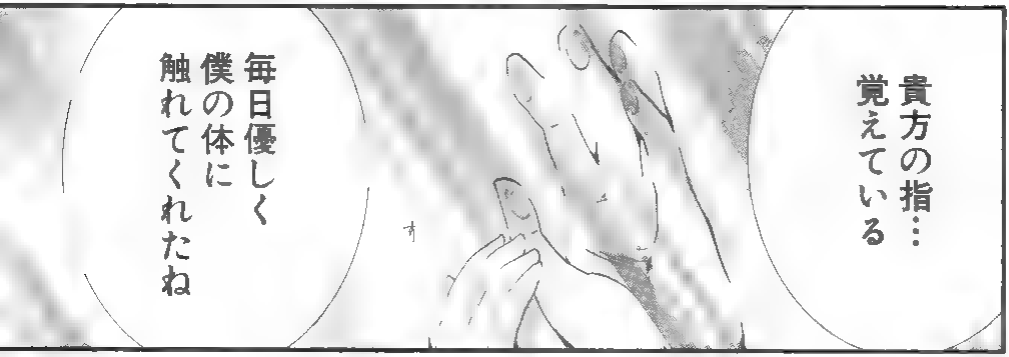
殆どが
まやかしだったんだね

本物は あの
大きな壁の
一枚だけ…

水銀燈に翠星石…
みんな無事か？よかっ…
あ……
はじめまして
貴方が僕のマスター…？

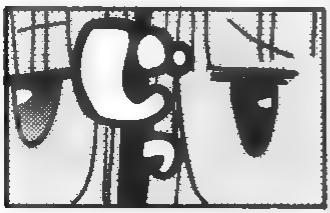
僕は
第四ドール
蒼星石
貴方の
お人形…

えっ…ぼ…
僕の…？
そう…
指輪の契りを
結んだ…
あっあの時の!?
まさか…あれは
事故みたいな
ものなのに…？
もちろんさ


貴方の指…
覚えている
毎日優しく
僕の体に
触れてくれたね

えっ
丁寧に最後まで
組み立ててくれた
あっまあ…
そういう
事なら…
ありがとう
マスター…

女の子…だよなだってボディは確かに…
いやいやっ僕は何を思い出して



僕が…この子の…
え…と…まるで男の子みたいに見えるけど…

レ
レ
はっ

よ――しっ充電完了かしら
おまたせかしらビッグジュン！

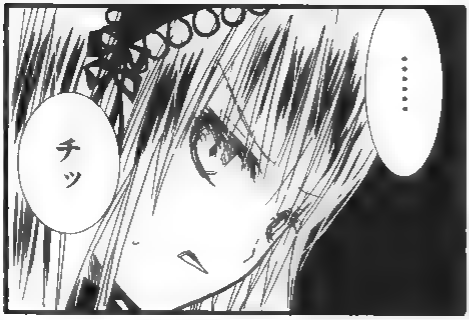
あとは はりきって
この最後の水晶のカベを
ぶち抜いちゃって…
待ちなさい
あら?
水銀燈?
はりきって
ですって?
全く…
こんな大きな水晶
そちらから割れば
こちら側の私たちは
どうなると言うの

頭から破片を浴びる
なんて御免だわ
もっとおつむを
使いなさいな
おばかさん
むぅ…
助けてあげるのに
なんて偉そうな…
水銀燈ってば
相変わらず
かしら

だったら こうかしら
カナが壁を壊すから
水銀燈はそちら側で
羽根を広げてみんなを
護ってあげて…
はあ?
なんで私が…
バカじゃないの?
おばかさん
ばっバカバカ
言いすぎ
なのかしら!!
私が〝おばかさん〟て
言葉を覚えたのは
貴女のおかげよ
なっなっ…

…なんの事よ
あのコトったら
あのコトかしら
くぅぅぅなんなのよ
もう
めんどくさい子ね
さーどうするの
かしらぐぅ

ふんっ…
そんな事言うなら
カナだって考えが
あるわ
協力してくれないなら
あのコト…
バラしちゃおうかしら


……
チッ

あとで
覚えて
なさい
折れた…
折れた…

金糸雀…
あの水銀燈を
言い負かすなんて
侮れない子…
彼女たちは
一番目と二番目の
姉妹だ
僕らの知らない
時間があったの
だろう

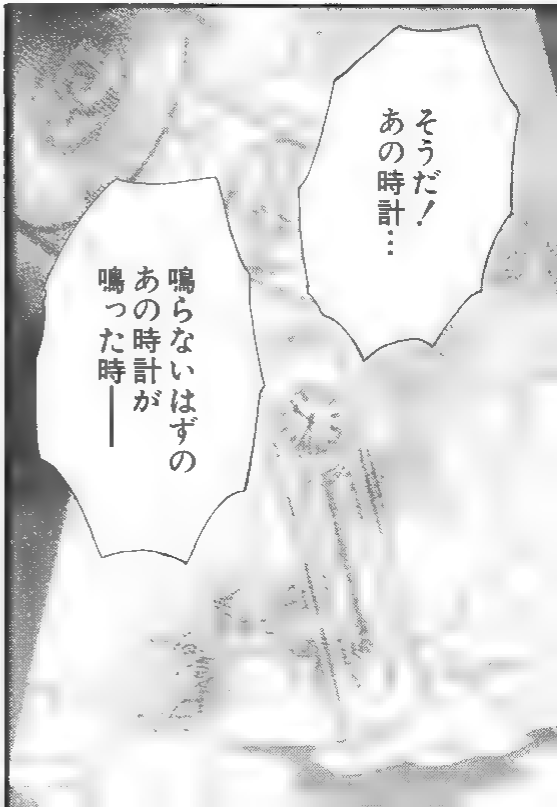
いいかしら
いくわよ
第二楽章…
クレッシェンド！

ピリ
ピリ
ぐっ…
すごい…
なんてボリュームだ
響いて
反り返して
弾く！
みんなっ…
っ……

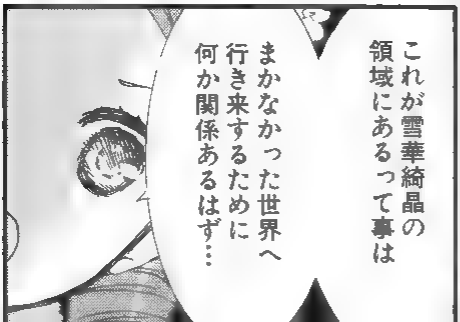
っ…
これ…

この時計…
見覚えが…
あの舞台の
大道具だわ

雪華綺晶が
現れたの
だったわね…


そうだ！
あの時計…
鳴らないはずの
あの時計が
鳴った時――

ジュン！これが
「鍵」だわ！
鍵……？


これが雪華綺晶の
領域にあるって事は
まかなかった世界へ
行き来するために
何か関係あるはず…

あった事を
あった事に
なかった事を
なかった事に
するための…
きっとこの時計は
鍵になるの
かしら！
まいた世界の…？
元の世界を
元に戻すための…
鍵…？

to be continued

初出◆「週刊ヤングジャンプ」H21年23号、28号、32号、36＋37合併号、
42号、45号、50号

ヤングジャンプ・コミックス
ローゼンメイデン3

発行日 2010年2月24日［第1刷発行］

著　者 ◆ PEACH-PIT
©PEACH-PIT 2010
編　集 ◆ 株式会社ホーム社
〒101-8050　東京都千代田区一ツ橋2丁目5番10号
電話　03（5211）2651

発行人 ◆ 太田富雄

発行所 ◆ 株式会社集英社
〒101-8050　東京都千代田区一ツ橋2丁目5番10号
電話　03（3230）6222［編集部］
03（3230）6191［販売部］
03（3230）6076［読者係］

デザイン ◆ ミルキィ・イソベ＋明光院花音（ステュディオ・パラボリカ）
プリンティング・ディレクター ◆ 森岩麻衣子（凸版印刷株式会社）

Printed in Japan

印刷所 ◆ 凸版印刷株式会社

造本には十分注意しておりますが、乱丁・落丁（本のページ順序の間違いや抜け落ち）の場合はお取り替え致します。購入された書店名を明記して、集英社読者係宛にお送り下さい。送料は集英社負担でお取り替え致します。但し、古書店で購入したものについてはお取り替え出来ません。
本書の一部または全部を無断で複写、複製することは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。

ISBN 978-4-08-877811-2 C9979

◎この作品はフィクションです。
実在の人物・団体・事件などにはいっさい関係ありません。